



『やらされている部活動』からの意識改革

生徒と教師が目標を共有し、ともに学び・チャレンジできるチームへ

部活動教育目標

生きる力を育む人間力の育成
礼・感謝・和

目標に向かって努力する生徒の育成
○目標達成のため、課題解決ができる集団の育成
○失敗を恐れずチャレンジできる生徒の育成

PDCA サイクルの活用
計画・実施・評価・改善
○目標を達成（課題解決）するための行動共有

コミュニケーション能力の育成
○自分の意見を持ち、発信できる生徒
○個々を尊重し、仲間を大切にできる生徒
○より良い集団となれるよう意識の共有

OODA による意思決定
観察・情報判断・意思決定・実行
○ OODA の思考・判断の習得

顧問・(家庭)の役割

- チームリーダーの育成
- ティーチングからコーチングへ
- 誇りとプライドをもてる集団の育成
- 失敗はOK！チャレンジする生徒を支援
- 生徒の自立・自己解決能力の育成

○部活動の課題（生徒が主体的に取り組むための意識改革）

現状の部活動指導における課題として、大人が考へている思いを生徒に要求する場合、ビジョンが共有されていないと「やらされている」という感情が芽生え、自分たちの行動を振り返ることなく不平不満があふれる場面が多くみられます。

私は「やらされることは身につかない」という考え方があります。勉強にしても学ぶ気持ちがないのに1時間机に向かっていれば「頑張ってるな」と判断する親もいます。しかし、学ぼうという意識なく（やっているふり）意味のないことをして時間の無駄です。まずは、覚えたい・学びたいと意識を変えることが必要です。1時間机に向かうより、10分集中して「覚えよう」と取り組むほうが身につく（学べる）と考えます。

★目的意識のない練習・惰性のような練習でやってるふりの中身で満足していませんか？

なぜこの練習をする必要があるんですか？この練習の意味は何ですか？と質問したら的確に部員は回答できますか。

○基礎基本の習得（基本なくして応用なし）

できる喜びを味わせることが意欲の向上にはとても大切です。基礎基本の習得をおろそかにしませんか。生徒が失敗するには原因があります。同じミスでも意図があっての失敗と何も考へていないミスでは違いがあります。後者の場合は同じ失敗を繰り返します。理解していないのです。算数でいえば掛け算割り算ができていないのに、分数や小数の計算、時には一次方程式を求めていませんか。指導者が「わかっているの」と聞けば「はい」と答えます。基本の動作がわからなければ応用することはできません。まずは基本動作を身につけられるよう丁寧な指導が求められます。

○課題解決を自分たち（顧問）で解決できる集団

課題が明確になった場合、その原因をしっかりととらえ、どのように解決していくかを考え行動に移していくことが大切です。自分たちの意見をしっかりと持ち、最善の解決策に向かって共有した方法で取り組み、コミュニケーションを高めていくれる集団を目指しましょう。

ゲームや練習では、OODAの意思決定により素早い判断力が身に付きます。すなわち観察力・洞察力の向上によりコーチングの技術も身につけることができます。

○達成感や自己肯定感を味わせる。（成長の数値化）

個人やチームの目標達成や、小さなことでも意図した行動を認められることは生徒にとってとてもうれしく、また頑張ろうというモチベーションにつながります。我々アマチュアスポーツはミスをするのが当たり前です。そのミスを減らせるように日々練習に励んでいます。失敗を恐れて行動しない人より、行動して失敗してしまう方が価値があります。課題を解決するため、その原因について考えを共有し、改善できるように技術的・精神的にサポートしていくのが顧問の役割です。